



9月3・4日

皮膚病理指導医養成講座
第一部炎症性皮膚疾患 開催



北海道大学医学部第三講堂にて
第二部は11月26・27日に開催されます。

～今月の研修生をご紹介致します～



前列左から
伊東慶悟先生（東京慈恵会医大皮膚科）
曾和順子先生（大阪市立大学皮膚科）
竹田恵理先生（南大阪病院 皮膚科）



左から2番目
古賀香織先生（福岡大学医学部皮膚科）

～学会発表～

第69回日本皮膚科学会東部支部総会（盛岡市）2005.9.24-25

- 1) 毛芽細胞様細胞のある角化性嚢腫
安齋眞一（札幌皮膚病理研究所）、津田昌明、長門一、西巻啓子、
輪湖雅彦、真鍋求（秋田大）、福本隆也、木村鉄宣（札幌皮膚病理研
究所）
- 2) 下腿に生じた皮膚混合腫瘍
横井彩、石田晋之介、西巻啓子、梅林芳弘、真鍋求（秋田大）、
安齋眞一（札幌皮膚病理研究所）
- 3) 急速に隆起した先天性色素性母斑の1例
浅野雅之、奥山隆平、橋本彩、田上八朗、相場節也（東北大）、
加藤泰三（仙台市）、安齋眞一（札幌皮膚病理研究所）

先月号に引き続き、ご紹介いたします。

札幌皮膚病理研究所の4年間

3. 札幌皮膚病理研究所の到達点

それぞれの目的について到達点を紹介します。

A. 病理報告書の作製数は2004年度は3万件をこえ、このうち難解な症例のコンサルテーションをうけた症例は286件あります。

B. 研修医の数はすでに36名を超え、現在は2名が研修中です。皮膚科医と病理医だけでなく医学部の学生にも研修の機会を提供してきました。

C. この4年間で学会発表数は21件、論文発表数は55編、著作（分担執筆と責任編集）は3冊です。開催したセミナー数は23回で、のべ1,259人の参加を得ています。

また、インターネットにホームページを開き、皮膚病理関連情報を提供しています（www.sapporo-dermpath.com）。

4. 皮膚病理研究所の将来像

札幌皮膚病理研究所は現在は木村鉄宣（所長）、安齋眞一（副所長）そして福本隆也（有給研修医）の3人の皮膚科専門医が業務に従事しています。さらに村澤章子（嘱託：非常勤）と事務従業員6名でこれらの活動をしています。

この4年間の業績の伸びは、私たちの目的と活動が現在の皮膚科と病理の需要と患者の期待に応えることができたからだと確信しています。私はこれからもこの需要と期待に応えることができるように、

所長 木村鉄宣

そして「フルタイムの皮膚病理医になりたい」「同じ仕事をしたい」、という後継者を得ることができるような医師の待遇を実現するために事業を続けます。

さらに、現在も進行している大学との共同研究をもっと活発にする、そして皮膚科あるいは病理の専門医養成の研修プログラムに札幌皮膚病理研究所での研修を組み込んでもらう、ことも大事な課題として取り組みます。日本の皮膚病理の活動を本格的にそして活発にするためには、大学や市中病院に皮膚病理部門を開設する必要がある、とも考え、人材の育成にも取り組んでいます。

最後に

現在、木村鉄宣（所長）は臨床教授（旭川医大）、非常勤講師（北大、札幌医大）、院外講師（藤田保健衛生大学）、安齋眞一（副所長）は非常勤講師（秋田大学）そして福本隆也は非常勤講師（奈良医大）に任命されています。また、4年間の私への招待講演依頼は29件あり、また皮膚科学会のCPCの座長やコメンテーターも6回つとめました。私たちの活動に対するこの様な外部からの評価と、臨床の先生方からの感謝と応援の言葉に励まされて歩んできた4年間でした。関係各位に深く感謝いたします。

（札幌皮膚科医会会報 2005年第2号 掲載記事より）

今後のスケジュール

2005,10,1-2

セミナー：皮膚病理診断ワークショップ
& コンセンサスセミナー

会場：札幌皮膚病理研究所

2005,10,15

講演；第6回京滋難治性皮膚疾患研究会
会場；ウエスティン都ホテル京都

今月の症例

Lupus erythematosus profundus

20才、女性

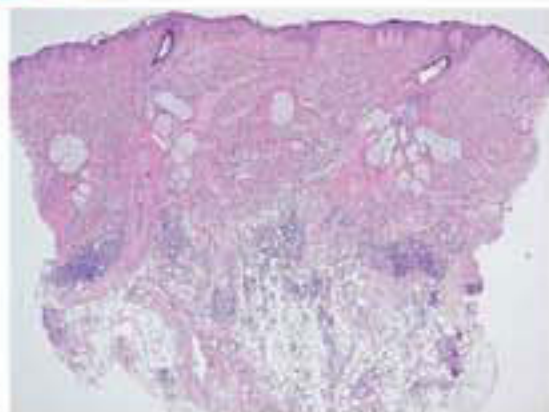
生検部位：後頭部。

抗核抗体陽性

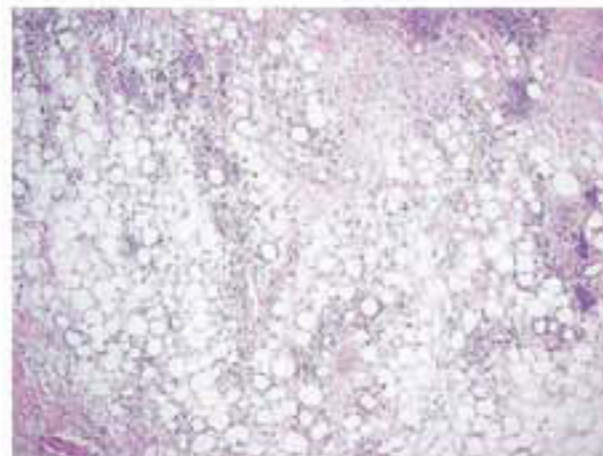
臨床診断：限局性強皮症？

病理診断：Lupus

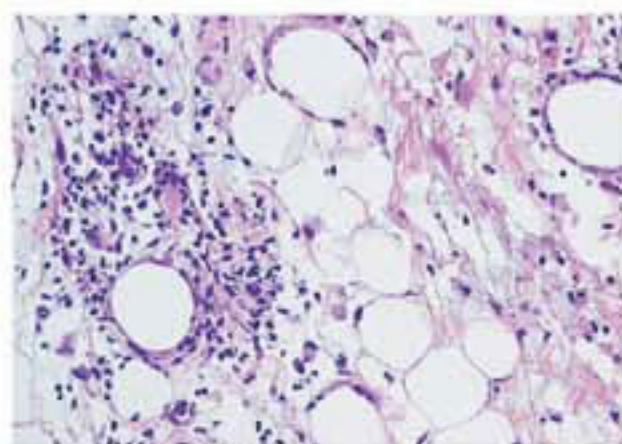
erythematosus profundus



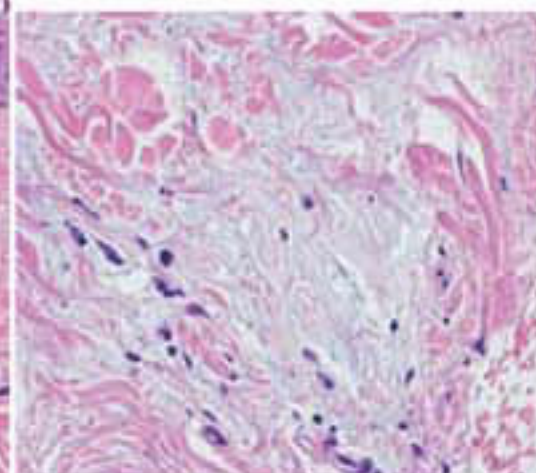
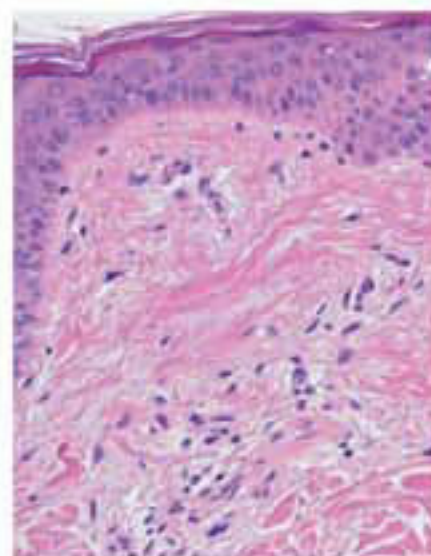
病変の主体は皮下脂肪織にあり、著明な炎症細胞浸潤がある。



炎症は脂肪小葉にあり (lobular panniculitis)、脂肪細胞の変性や壊死を伴っている。



炎症細胞はリンパ球のほか、形質細胞や組織球がある。脂肪細胞の壊死やムチンの沈着が目立つ



(左) 真皮上層では血管周囲に炎症細胞浸潤があり、周囲にはムチンの沈着を伴う。

(右) 真皮深層でも膠原線維の変性とムチンの沈着が目立つ。

開催セミナーのご案内

第13回札幌皮膚病理セミナー ～世界の皮膚病理学と皮膚病理医～

講師：Geoffrey Gottlieb, M.D.

(Managing Director, Ackerman Academy of Dermatopathology/Ameripath, New York)

日時 特別講演 2005年12月 9日(金) 19時より20時半(参加費無料)
セミナー 12月10日(土) 8時より17時 (18時より懇親会)
12月11日(日) 8時より14時 早期申込割引受付締切-11/8(火)

会場 北海道大学 医学部臨床大講堂 (札幌市北区北15条西7丁目)

参加費 32,000円 (早期お申込割引：28,800円) 定員 100名

プログラム (予定)

12月10日(土)

8:00 - 11:30

1 Compare your diagnosis with Dr.Gottlieb;

当研究所で選んだ興味深い症例を事前にホームページに掲載いたしますので、まずはご自身で診断をつけてください。当日、会場にてDr.Gottliebに標本を提示し、診断をつけていただきます。

参加者はDr.Gottliebの診断の過程を見ると共に自分の診断と比較することができます。

14:00 - 17:00

2 Consultation to the expert;

参加者より事前にコンサルテーション症例を募集し、その場でDr.Gottliebに症例の診断をつけていただきます。

※応募数が多い場合は、希望に応じて札幌皮膚病理研究所もコンサルテーションに参加します。

12月11日(日)

8:00 - 11:00

3 Great cases from Ackerman Academy of Dermatopathology;

Dr.GottliebよりAckerman Academy of Dermatopathologyで経験された興味深い症例を紹介していただきます。

12:00 - 14:00

4 Dr.Gottlieb's new concepts and ideas in Dermatopathology;

Dr.Gottliebのnewコンセプト・newアイデアをご紹介します。

お申し込みは
ホームページ・
Email・FAXにて

【Geoffrey Gottlieb, M.D.】

アッカーマン皮膚病理アカデミー (Ameripath) 代表取締役

Cornell University Medical College, 1976年卒

1982年～ ニューヨーク大学病院皮膚科・病理 助教授およびニューヨーク大学病院皮膚科 臨床助教授

2001年～ アッカーマン皮膚病理アカデミー 医療ディレクター

雑誌編集長補佐; Dermatopathology: Practical and Conceptual

著書; Ackerman AB, Boer A, Bennin B, Gottlieb GJ: Histologic Diagnosis of Inflammatory Skin Diseases, Third Edition. Ardor Scribendi, 2005

そのほかのセミナーについてはホームページをご覧ください

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842

E-mail office@sapporo-dermpath.com Website www.sapporo-dermpath.com

編集担当者; 高野 敦子